

再資源化預託金等に付する利息の計算で使用する  
平成16年度の利率の算出について

1. 再資源化預託金等に付する利息の考え方

- (1) 自動車リサイクル法第75条では、資金管理法人は主務省令で定めるところにより、再資源化預託金等に利息を付さねばならないとしており、主務省令(施行規則第70条)で詳細が規定されている。
- (2) 施行規則第70条では、以下のルールで再資源化預託金等に利息を付すこととしている。

【利息が付される期間】

当該再資源化預託金等が預託された日の属する年度から、以下に掲げる行為が行われた日の属する年度の前年度

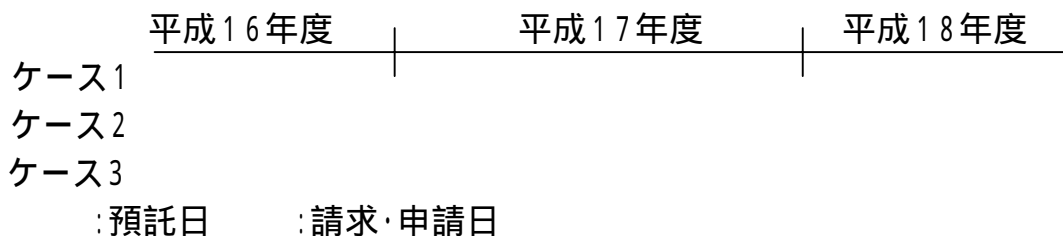
再資源化等預託金について、自動車製造業者等から払渡し請求をされたとき。

再資源化預託金等について、中古車輸出した自動車所有者から返還請求をされたとき。

再資源化預託金等について、特定再資源化預託金等として出えんの承認申請、又は再資源化等預託金の一部負担の認可申請がされたとき。

情報管理預託金について、情報管理センターから払渡し請求をされたとき。

(利息が付される期間の例示)



ケース1 平成16年度

ケース2 利息が付される年度なし

ケース3 平成16年度、17年度

### 【利息計算の仕方】

上記の期間の各年度における利率を用いて複利計算して算出した元利合計額(1円未満は切捨て)から当該再資源化預託金等の額を減じた額

### 【利息の計算で使用される各年度の利率】

平成16年度においては、平成16年度に再資源化預託金等を運用して得た運用利益金の総額を平成16年度末における再資源化預託金等(承認・認可済特定再資源化預託金等を除く。)の総額で除して算出し、小数点以下第5位未満の端数は切捨てとする。

平成16年度における利率の算式

平成16年度において再資源化預託金等を運用して得た運用利益金の総額

平成16年度末における再資源化預託金等の総額

平成17年度以降は、上記の利率計算の際に切捨てた端数や前年度までの運用益を加味して利率を算定することとなる。

### 【再資源化預託金等を運用して得た運用利益金の総額】

資金管理法人では、一定期間内(年度単位)に発生した運用利益を正しく認識することが重要であるため、現金主義ではなく、発生主義にもとづく会計処理を行っている。そのため、以下の3つの合計額が再資源化預託金等を運用して得た運用利益金となる。

保有債券の利息は、当該債券の取得日翌日(前年度以前に取得した債券については、当該年度4月1日)から当該年度末(当該年度に償還される債券については償還日)までの日数で年利息を日割計算して得た額

債券の取得価格が額面と異なる場合<sup>(注1)</sup>においては、当該債券の取得日翌日(前年度以前に取得した債券については、当該年度4月1日)から償還日までの期間に対する、取得日翌日(前年度以前に取得した債券については、当該年度4月1日)から当該年度末(当該年度に償還される債券については償還日)までの日数に応じて償却原価法<sup>(注2)</sup>により計算した償却損益額。

再資源化預託金等の入金後、債券取得までの間に発生する金融機関からの利息収入

#### (注1) 債券の取得価格と額面の乖離について

債券を保有すると、每期利息が発生するとともに、満期償還時に債券の額面金額を受け取ることができる。市場の金利は経済情勢によって変化するため、額面金額に対する利息の割合と市場金利には当然乖

離が発生し、この乖離は額面価額と債券の市場価格の差として反映されることとなる。

(注2)償却原価法について

債券を額面金額より高い価格で取得した場合には、償還時に額面と取得価格の差額相当分の償還差損が発生し、額面より低い価格で取得した場合には、償還時に額面と取得価格の差額相当分の償還差益が発生する。償却原価法とは、この差損益の計上に際して、償還時に一度に計上しないで、償還日までの期間に応じて均等に償却する方法。

2.平成16年度の利率

(1)利率の算式

$$\frac{\text{平成16年度において再資源化預託金等を運用して得た運用利益金の総額}}{\text{平成16年度末における再資源化預託金等の総額}}$$

(2)平成16年度において再資源化預託金等を運用して得た運用利益金の総額

平成16年度において再資源化預託金等を運用して得た運用利益金の総額は4,060,434円となる。

債券種別	保有債券簿価残高	運用利益金
国債	22,289,185,513 円	2,806,623 円
政府保証債	2,084,885,343 円	750,408 円
地方債	1,395,838,025 円	185,280 円
社債	200,000,000 円	125,808 円
財投機関債	399,800,493 円	154,355 円
金融債	300,000,000 円	36,986 円
運用資産合計	26,669,709,374 円	4,059,460 円

現預金	7,289,037,392 円	974 円
-----	-----------------	-------

運用利益金合計	4,060,434 円
---------	-------------

(3)平成16年度末における再資源化預託金等の総額

平成16年度に預託された再資源化預託金等の総額	96,048,926,732円
平成16年度に自動車製造業者等又は情報管理センターに払渡された再資源化預託金等の総額	517,768,820円
平成16年度末における承認・認可済特定再資源化預託金等	0円
平成16年度に中古車輸出した自動車所有者への返還が確定された再資源化預託金等の総額	0円
再資源化預託金等の総額 ( - - - )	95,531,157,912円

(4)平成16年度の利率

上記(1)の算式に平成16年度の実績値を当てはめて計算すると、0.000042・となり、小数点以下第5位未満を切捨てるため、0.00004となる。

(注)平成16年度の利率が低い理由は以下のとおり。

平成16年度末における再資源化預託金等の総額に比べ運用可能金額が1/3以下しかなかったこと

再資源化預託金等が預託されてから資金管理法人の口座に入金されるまでにはタイムラグがあるため、平成16年度に預託された金額は約960億円である一方、年度内に入金され債券運用を実施することができた金額は約267億円で過ぎない。

債券運用の期間が極めて短期であったこと

上記のタイムラグにより、預託金の入金を実質的には2月末から始まったため、運用期間は3月1ヶ月間と短期であった。

以上